

横浜断層に関する追加地質調査の概要について

1. 調査目的

東京電力株式会社、東北電力株式会社、ならびにリサイクル燃料貯蔵株式会社では、各社の原子力関連施設における安全審査等の中で、調査データの拡充のために地質調査の追加実施など必要な措置を講じてきている。この過程において、活動性がないと評価していた断層の一部である横浜断層について、その活動性を確認するために、より一層の調査データの拡充が必要であると判断したことから、更なる地質調査を行うものである。

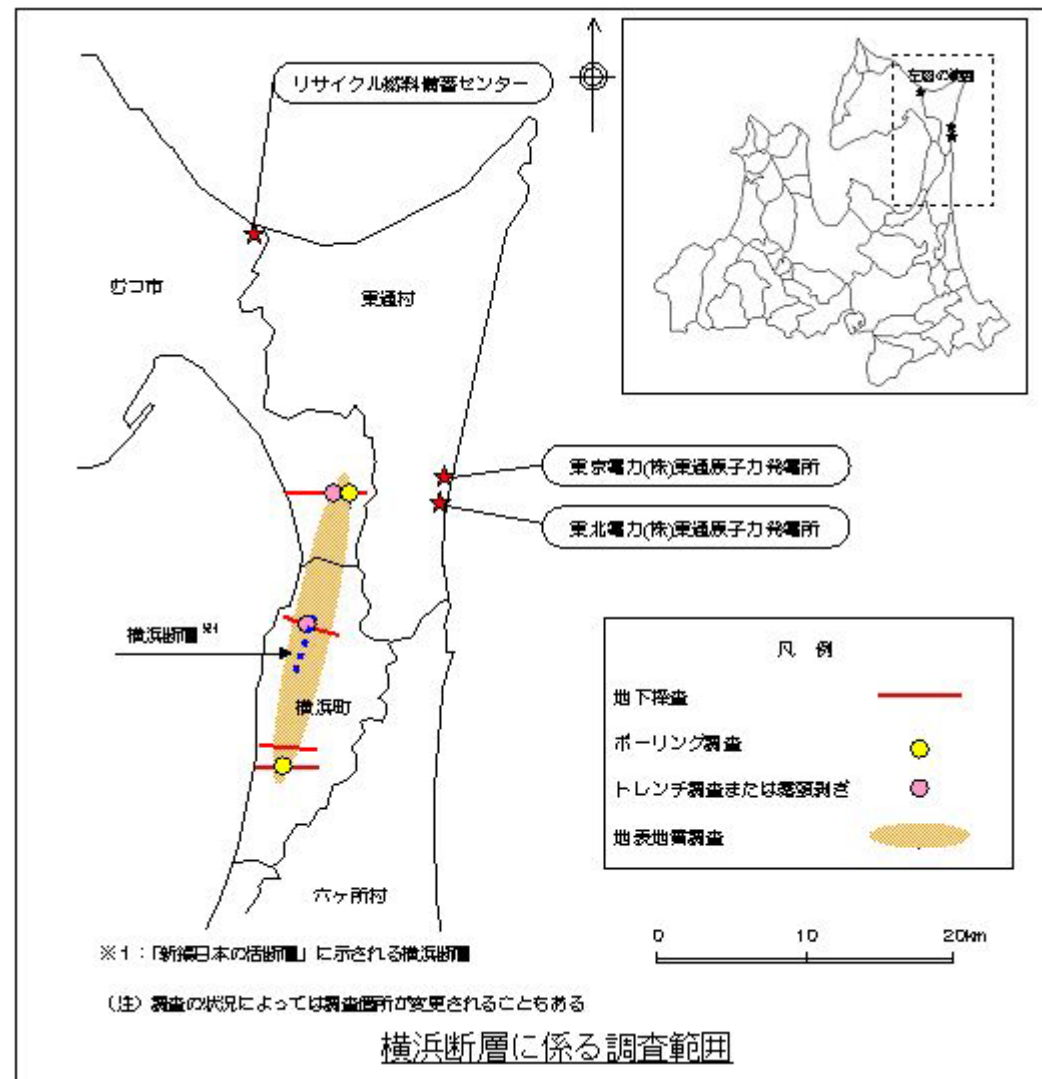
2. 調査概要

(1) 調査範囲

下図に示す範囲について調査予定。

(2) 調査実施時期(予定)

平成 20 年 3 月 14 日～平成 20 年 6 月末

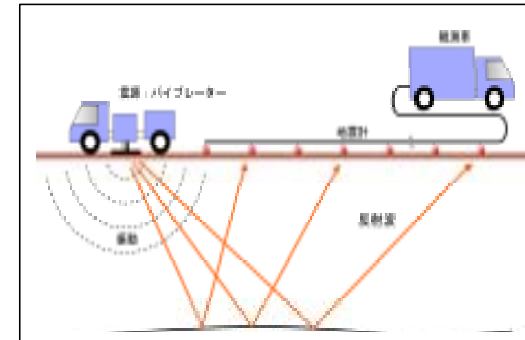


(3) 調査方法

横浜断層の活動性および同断層の深部構造等を把握するため、地下探査、ボーリング調査、トレンチ調査、および地表地質調査を、上図に示す範囲において実施する。

< 地下探査 >

起震車を用いて、地下に振動を与え、地層からの反射波をとらえ、解析を行うことで、地下構造を調査する。なお、探査する深さや道路状況に応じて、起震車としてバイブレーターおよびインパクトターを使い分ける。



主な使用機材

全幅: 2.4m 全長: 8.2m 全高: 3.3m 重量: 17.7t

起震車A (バイブレーター) (探査深度 2 km程度)

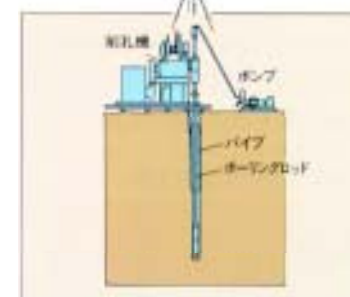
全幅: 1.9m 全長: 4.8m 全高: 2.8m 重量: 6.5t

起震車B (インパクトター) (探査深度 500m程度)

[道路の幅員が狭い場所で使用]

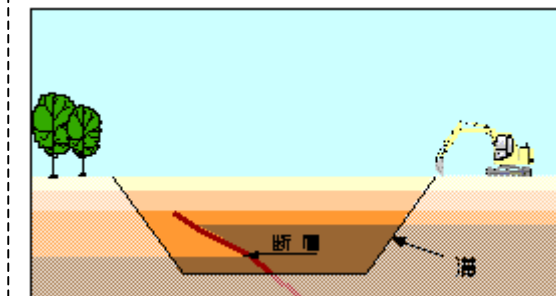
< ボーリング調査 >

地盤を構成する岩石などを棒状のコアとして連続的に採取し、これを観察して地質の状況を調査する。これを複数箇所で行うことにより、地層の分布状況(連続分布など)を把握する。



< トレンチ調査 >

断層を横切るように溝を掘り、溝の壁面に現れた断層部と断層周辺の地質を観察し、断層の過去の活動履歴を調査する。



< 地表地質調査 >

地上で地層が直接見られる場所(露頭)などを観察し、地質を調査する。



3. 調査数量・概略工程(予定)

調査項目	数量	3月	4月	5月	6月
地下探査	4 測線	[Progress bar from March to June]			
ボーリング調査	2 地点 (1 地点当り数本)	[Progress bar from April to June]			
トレンチ調査または露頭剥ぎ ²	2 地点	[Progress bar from May to June]			
地表地質調査	-	[Progress bar from March to June]			

2: 表土などを剥ぎ取って行う露頭調査

(注) 調査の状況によっては数量を変更することもある